



「会話」と「対話」

教頭 野澤諭史

こんな寓話があるそうです。

	仲のよい姉妹がいました。 あるとき、姉妹は一つしかないオレンジを取り合ってケンカをしました。 話し合った結果、二人で半分ずつ分けることになりました。 しかし、お互いに不満が残ってしまいました。なぜでしょう？	
---	--	---

10秒、考えてみてください。話し合ったのに不満が残った理由は……。

姉は、オレンジの果肉を食べて皮を捨て、 妹は、皮をケーキ作りに使って果肉を捨ててしまったから。
--

この寓話は、対話することの大切さを教えてくれます。

仲のよい姉妹ですから、きっとたくさんの会話をとおして「半分ずつ分ける」という結論を出したのでしょう。なるほど、この結論はいかにも正しそうです。しかし、それでもお互いに不満が残ってしまいました。それは、きっと「なぜオレンジがほしいのか」というお互いの思いと理由までを理解し合う話し合い、つまり対話をしなかったからではないでしょうか。

会話と対話、意味を調べると以下のような違いがあります。

「会話」……特定の目的をもたず、日常的な情報交換や社会的な交流を主な目的とした、自由で柔軟なコミュニケーションのこと。

「対話」……異なる価値観をもつ参加者が相互理解を深め、新たな気づきや洞察を得ることを目的とした、より深いコミュニケーションのこと。

姉妹は、「自分はこのくらいほしい!」と量を主張するだけでなく、オレンジを必要とする目的と理由、自分の思いを伝え合う対話をするべきでした。そうすれば、どちらも丸々1個分の果肉と皮を手に入れることができたはずです。

山田小学校の教育ビジョンには、児童の思考力を高めるための「『対話』で学びを深める授業」を掲げています。現在進められている校内授業研修でも、この視点を重視して授業改善、学習指導法の検討を積み重ねているところです。気の置けない人との楽しい「会話」の先、深い学びに向かう「対話」を山田小学校では目指していきます。